

The background features several stylized, colorful cartoon characters. At the top center is an orange character with a large yellow beak. To its right is a blue character with a yellow beak. On the left is a yellow character with a red beak. At the bottom center is a yellow character with a blue eye and a yellow beak. To its right is a green character with a white face and a red beak. At the bottom left is a red character with a yellow eye. All characters have large, expressive eyes and are drawn in a simple, bold style.

CSR REPORT 2019

創業者・小林一三

東宝グループに今なお息づく、創業者の理念と精神

価値観 Values

吾々の享くる幸福はお客様の賜ものなり

東宝グループの事業は、お客様の「幸福」のためにあると同時に、会社の繁栄や従業員の生活の安定も、すべてはお客様からのご支持によるものです。そのことに常に感謝の気持ちを忘れず、より多くのお客様に夢や感動、喜びをお届けしたいと考えます。

使命 Mission

健全な娯楽を広く大衆に提供すること

創業者・小林一三は「事業の基礎を大衆に置く」と言いました。東宝グループはその精神を継承し、映画・演劇を核とした健全なエンタテインメントを「多くの幅広い層のお客様」に提供することを企業の使命と考えます。

行動の理念 Motto

朗らかに、清く正しく美しく

創業87年を迎えた現在も、このモットーは東宝グループの従業員に脈々と息づいています。東宝人はいかなる状況にあっても、人間として明るく、公明正大に事業に取り組み、お客様に健全な娯楽をお届けします。

創業者・小林一三は、現在の阪急電鉄の礎を築き、世界初の駅直結型デパートの阪急百貨店や宝塚歌劇団など、新たなライフスタイル提案やエンタテインメントまで、多くのお客様が心豊かに暮らせるための事業を次々と生み出し、成功させていきました。

そして1932年、小林一三は東京・日比谷に進出し、東宝の前身である「株式会社東京宝塚劇場」を設立します。

「朗らかに、清く正しく美しく、これをモットーとする我党の芸術は
即ち高尚なる娯楽本位に基づくところの国民劇である」
「大劇場をつくり、その大劇場によって初めて実現できる国民劇の育成」

小林一三には、長年抱いていた「大衆娯楽の提供」という強い思いがあり、東京進出は悲願達成への第一歩となりました。

映画・演劇の大衆娯楽を通じて、お客様の幸福に寄与していきたい――

小林一三の起こしたいくつもの事業。
その本質は「大衆本位」であり、「お客様本位」とも言えます。私たち東宝グループは、創業者の理念をしっかりと受け継ぎ、常に「お客様の幸福のために」という精神を根底に据え、日々の事業活動に取り組んでいます。





会社概要

東宝株式会社 [英語名: TOHO CO., LTD.]

設立: 1932年8月

資本金: 10,355,847,788円

代表者: 代表取締役社長 島谷 能成

従業員: 当社単体 389人
グループ 3,179人

※2019年2月28日現在

所在地: 東京都千代田区有楽町1丁目2番2号

連結売上高: 246,274百万円(2019年2月期)

事業内容: 映画製作・配給・興行、演劇製作・興行の事業を新宿東宝ビル・日比谷シャンテなどの不動産事業が堅実に支え、アニメ製作やDVD・Blu-rayソフトの制作・販売、シネマコンプレックス網の拡充にも力を注ぎ、幅広いお客様にエンタテインメントを提供しています。

CONTENTS 目次

- 01 創業者・小林一三
- 03 トップ・メッセージ
- 04 東宝グループのCSR方針
- 05 エンタテインメント
- 10 環境・社会
- 18 多様性とひと
- 24 コーポレート・ガバナンス

すべてはおお客様の“幸せ”のために――

私たちは、社員一人一人が持つ個性や才能を尊重し、生き生きと働くことのできる環境のもと、“健全な娯楽”を創造し続けます。これからもエンタテインメントを通じて、お客様の心に豊かな「夢」と「感動」の花を咲かせます。

東宝グループのCSRは、「吾々の享^うくる幸福はおお客様の賜ものなり」という、創業者・小林一三の精神に凝縮されていると考えています。私たちの事業は、すべてがお客様のためにあり、常にお客様に感謝し、お客様の目線に立って「幸福」を届けるビジネスです。

具体的には、映画・演劇事業における作品づくり、不動産事業における街づくりなど、エンタテインメントを中心とした事業活動を通じて、お客様の心に、夢と感動、驚きや喜び、元気をお届けすることです。これこそが東宝グループの根本的な社会的使命であり、責任であると考えています。

加えて本年は、「TOHO VISION 2021 東宝グループ中期経営戦略」に掲げたグローバルプロジェクトが第一歩を踏み出し、国内のみならず国境を越えて、世界中のお客様に良質なエンタテインメントをお届けすることができました。

これからも私たちは、「朗らかに、清く正しく美しく」をモットーに、お客様をはじめ、株主様、投資家の皆様、地域社会、お取引先、従業員といった、すべてのステークホルダーの皆様と共存共栄し、社会の持続的な発展に寄与していきたいと考えています。

今後とも、東宝グループに、より一層のご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

東宝株式会社 代表取締役社長
島谷 能成



創業者・小林一三の精神に凝縮された東宝のCSR方針

東宝グループは、「健全な娯楽を広く大衆に提供すること」を企業の使命 (mission) として掲げています。

私たちが提供する「映画・演劇・不動産」の各事業を通じて、夢や感動そして喜びをお客様にお届けし、あらゆる方に楽しんでいただく本業そのものが、当社グループのCSR方針であると考えています。

東宝グループは、創業者・小林一三の言葉「吾々の享くる幸福はお客様の賜ものなり」「朗らかに、清く正しく美しく」という理念のもと、社会的責任を果たし、企業価値の向上に努めてまいります。

CSRとは

CSR (Corporate Social Responsibility: 企業の社会的責任) は、社会から信頼されるモラルある企業をつくるための持続可能なマネジメント手法です。東宝グループは、お客様はもちろん株主様、投資家の皆様、地域社会、お取引先、従業員など、さまざまなステークホルダーからの信頼を得ながら、社会とともに発展していきたいと考えています。

ESGとは

環境 (Environment)、社会 (Social)、企業統治 (Governance) の頭文字を取ったものです。近年、企業の持続的成長のためにはESGが示す、3つの観点が必要だという考え方が世界的に広まっています。当レポートでは、ESGを意識した価値創造を目指すために、東宝グループのコーポレート・ガバナンスのもと、「エンタテインメント」「環境・社会」「多様性とひと」の3つの視点から、CSR活動をご報告します。

SDGsとは

SDGs (Sustainable Development Goals: 持続可能な開発目標) は、国連加盟国に適用される2030年までの普遍的な国際開発目標です。2015年9月にニューヨーク国連本部にて開催された「国連持続可能な開発サミット」で採択され、17のゴールと169のターゲットから構成されています。

東宝グループも人の心を豊かにするエンタテインメント企業の一員として、SDGsの趣旨に賛同し、事業活動を通して目標達成に貢献することを目指します。

⇒詳細は国際連合広報センターの「2030アジェンダ」ページをご覧ください。

https://www.unic.or.jp/activities/economic_social_development/sustainable_development/2030agenda/

東宝が重視するコーポレート・ガバナンスと3つの視点

— ESGとSDGsを意識した持続可能な価値創造を目指します —

コーポレート・ガバナンス

信頼される企業であり続けるために—

エンタテインメント

- 幅広いラインナップ
- 東宝の演劇文化
- あらゆる人を楽しんでいただくために
- かけがえのない「文化財」を未来へ

環境・社会

- IP (知的財産) を活用した社会貢献の取り組み
- 環境負荷軽減を実現する事業の展開
- お客様の安心・安全への取り組み
- 多様な鑑賞機会の創出とIP (知的財産) の有効活用
- 次世代育成への取り組み

多様性とひと

- 人材育成
- ダイバーシティ (多様性) 推進
- 東宝らしい働き方の追求

ENTERTAINMENT

エンタテインメント



「健全な娯楽を広く大衆に提供すること」：幅広いラインナップ

東宝は、アニメ作品、ファミリー作品、TVドラマシリーズ、文芸作品など、幅広いジャンルの映画を提供しています。老若男女問わず、できるだけ多くの方に映画を楽しんでいただけるよう、バランスのとれたラインナップの編成を心掛け、我々の使命「健全な娯楽を広く大衆に提供すること」を果たしていきたいと考えています。

東宝グローバルプロジェクト始動

東宝は、今後も成長が大いに見込まれる海外市場の開拓に着手すべく、「東宝グローバルプロジェクト」を掲げました。2019年には当社のIP（知的財産）である「ゴジラ」や、日本発のIPである「ポケモン」をハリウッドとの共同製作で実写化した『ゴジラ キング・オブ・モンスターズ』や『名探偵ピカチュウ』を、世界中のお客様にお届けし、大ヒットを記録しました。来年以降も『ゴジラVSコング』（仮）、『モンスターハンター』、『君の名は。』の実写化などの国際的な共同製作プロジェクトが控えており、今後も海外展開を積極的に進めていきます。



2018年配給作品 | 興行収入10億円以上の作品

■ 実写映画

社会派、時代劇、ラブストーリー、アクション、コメディ、SF——
幅広いジャンルで、いかなる世代にも楽しめる作品群を提供しています。

公開年月	作品名	興行収入(単位:億円)
2018 7月	劇場版コード・ブルー ドクターヘリ緊急救命ー	93.0
2017 12月	DESTINY 鎌倉ものがたり☆	32.1
2018 8月	検察側の罪人	29.6
2018 11月	スマホを落としただけなのに	19.6
2018 3月	ちはやふるー結びー	17.3
2018 2月	空海-KU-KAI- 美しき王妃の謎*	17.0
2018 1月	祈りの幕が下りる時	15.9
2018 9月	コーヒーが冷めないうちに	15.0
2018 5月	ラプラスの魔女	14.0
2018 8月	センセイ君主	12.3

■ アニメーション映画

キッズからファミリーまで、幅広い年齢層のお客様にお楽しみいただいています。

(2019年8月現在)

公開年月	作品名	興行収入(単位:億円)
2018 4月	名探偵コナン ゼロの執行人(しっこうにん)	91.8
2018 3月	映画ドラえもん のび太の宝島	53.7
2018 7月	劇場版ポケットモンスター みんなの物語	30.9
2018 7月	未来のミライ	28.8
2017 12月	映画 妖怪ウォッチ シャドウサイド 鬼王の復活☆	20.4
2018 4月	映画クレヨンしんちゃん 爆盛!カンフーボーイズ〜拉麺大乱〜	18.4
2018 8月	僕のヒーローアカデミア THE MOVIE ～2人の英雄(ヒーロー)～	17.2

*共同配給作品 ☆印の付いている作品は、冬休み・お正月興行作品のため、2018年公開作品とカウントしています。
資料作成出处:日本映画製作者連盟

お客様とともに育む、東宝の演劇文化

高い芸術性を持ち、広く大衆に楽しんでもらえる「国民劇」をお届けするという創業者・小林一三の理念のもと、東宝の演劇は日本演劇史に残る数々の名作を生み出し、直営劇場である「帝国劇場」と「シアタークリエ」を中心にさまざまなジャンルの演劇をお客様にお届けしています。「帝国劇場」は、日本初の本格的な洋式劇場として100年を超える歴史と伝統を誇ります。1939年より東宝が運営にあたり、「時代を象徴した劇場」をコンセプトとして、ブロードウェイ・ミュージカル、宝塚歌劇、ストレートプレイなど、これまでさまざまなワールドクラスのエンタテインメントを世に送り出してきました。また、「新しいものを新しいキャストで」というコンセプトで誕生した「シアタークリエ」も12周年を迎え、ジャンルを問わず国内外の優れた作品を幅広く紹介し続けています。これら2劇場を中心に、全国各地の劇場で東宝演劇作品を上演し、さらなる演劇文化の向上と発展に努めています。

東宝演劇の新たな挑戦 —— 海外進出とオリジナル作品の製作 ——

東宝の演劇部は、第73回「トニー賞」で11部門にノミネートされ、ミュージカル主演男優賞、同脚本賞を受賞したブロードウェイ・ミュージカル『トッツィー』に出資し、共同プロデューサーとして作品に参加しました。本作は2021年より英国ウエストエンドやオーストラリアなど、世界公演が予定されています。

また2019年6月には、人気演目『エリザベート』などの日本における芸術活動が称えられ、小池修一郎、山口祐一郎、一路真輝、花總まり、井上芳雄が、オーストリア政府より「オーストリア共和国功労章」を授与されました。国内においても、東宝は新たなオリジナル作品の製作に挑戦し続けています。『ナイツ・テイル -騎士物語-』では、堂本光一、井上芳雄ら人気と実力を備えたキャストと、演出家ジョン・ケアードをはじめ、音楽、振付、装置、衣裳など、ブロードウェイやウエストエンドで活躍する世界的クリエイターが結集し、日本発ワールドクラスの作品として帝国劇場で上演されました。このように東宝演劇の世界進出や国内でのオリジナル作品製作などの新たな挑戦が、国内外の高い評価を獲得しています。



photo by Leslie kee

伝統の継承 —— 歴史ある作品の公演 ——



日本での公演が30年以上続く歴史ある東宝演劇の一つ『レ・ミゼラブル』は、本年も連日の大入り満員となりました。長年にわたり公演を続けていくことで、親子三代でご鑑賞されるお客様も見受けられ、東宝演劇の裾野が広がっています。2006年初演の『マリー・アントワネット』は、現在までに5度の海外公演を果たし、国内外の多くのミュージカルファンからも支持されています。1978年初演の『おもろい女』は、2018年の第73回文化庁芸術祭演劇部門で主演の藤山直美が大賞を受賞しました。これからも東宝は、新たなラインナップ開発に加えて、世界中のお客様に世代を超えて愛され続ける作品を製作していきます。

■ 歴史ある当社の演目

上演開始年	上演作品	
1961年	●『放浪記』	森光子から仲間由紀恵に受け継がれた、東宝演劇の代表作
1963年	●『マイ・フェア・レディ』	日本初「ブロードウェイ・ミュージカル」の翻訳上演
1966年	●『細雪』	時代を彩る名女優で魅了する、谷崎潤一郎原作の四姉妹の物語
1966年	●『風と共に去りぬ』	M・ミッチェルの不朽の名作を菊田一夫の脚本により世界初舞台化
1967年	●『屋根の上のヴァイオリン弾き』	森繁久彌に始まり代々の名優に支えられた家族愛を描くミュージカル
1969年	●『ラ・マンチャの男』	半世紀にわたり愛され続ける、人間のあるべき姿を問いかけるミュージカル
1987年	●『レ・ミゼラブル』	世界初の英語圏以外での上演から、公演回数3,000回を超えるミュージカルの金字塔
1992年	●『ミス・サイゴン』	大がかりな舞台セットと美しい音楽が代名詞となったメガ・ミュージカルの先駆け
2000年	●『エリザベート』	数々の名曲と華やかな衣裳に彩られたウィーン発ミュージカルの傑作
2006年	●『マリー・アントワネット』	遠藤周作の小説をもとに国内外のクリエイターと製作した東宝オリジナル・ミュージカル
2008年	●『RENT』	若者たちの姿を描く、ピューリッツァー賞にも輝いたロック・ミュージカル
2016年	●『ジャージー・ボーイズ』	読売演劇大賞受賞、ブロードウェイ・ジュクボックス・ミュージカル翻訳公演の代表作

■ 東宝オリジナル・ミュージカル作品

上演開始年	上演作品	上演開始年	上演作品
1970年	『スカーレット』	2014年	『レディ・ベス』
1998年	『ローマの休日』	2016年	『王家の紋章』
2003年	『十二夜』	2017年	『グレート・ギャツビー』
2006年	『マリー・アントワネット』	2018年	『ナイツ・テイル -騎士物語-』

あらゆる人に楽しんでもいただくために

創業者・小林一三の理念に基づき、東宝では「健全な娯楽を広く大衆に提供すること」を目指しています。

あらゆるお客様にエンタテインメントを楽しんでもいただける空間と環境を創造し、さらなる快適さと利便性の向上に率先して取り組んでいます。



バリアフリー上映への取り組み

東宝では、1998年より聴覚障がい者向けにセリフや効果音などをスクリーンに日本語字幕で表示する「日本語字幕版」上映を開始しました。2008年からは「日本語字幕版」に加えて視覚障がい者向け「音声ガイド付き」上映にも取り組み、これらバリアフリー上映に対応している映画館が分かりやすいようにホームページも刷新しています。

2016年12月公開の『海賊とよばれた男』からは、「UDCast(*1)」方式に対応した視覚障がい者用音声ガイドの提供を開始しました。「UDCast」では、スマートフォンなどの携帯端末にアプリをダウンロードいただくことにより端末のマイクが本編の音声を拾い、それと同期した「音声ガイド」を聞くことができます。



アプリ「UDCast」TOP画面イメージ

また、2018年7月公開の『劇場版ポケットモンスター みんなの物語』以降は、「UDCast」方式に対応した聴覚障がい者用日本語字幕の提供を開始し、メガネ型端末に字幕を表示させながら本編をご鑑賞いただくこともできるようになりました。スクリーンに字幕を表示する従来の日本語字幕付き上映とあわせて、より多くのお客様に作品を届けられるように、今後配給予定の作品も映画館と一体になって「UDCast」方式に対応していきたいと考えています。

さらに、今後リリースする東宝配給の新作映画(発売元:東宝)のDVD・Blu-rayなどのビデオグラムでは、日本語字幕と音声ガイドを収録するよう努める方針です。

*1・対象上映作品については全ての上映劇場、上映回にてご利用いただけるサービスです。(ただし作品によって提供開始日は異なります。)

ママズクラブシアター®



ママズクラブシアター™

TOHOシネマズでは子育て支援の取り組みとして、2003年より業界に先駆けて全国の映画館で「ママズクラブシアター®」を月1~2回・木曜日、全国59サイトで実施しています。「周囲を気にせず映画を楽しめる」「お友達・ママ・パパと公園に行く感覚で映画を楽しめる」「赤ちゃんが泣いてもお互いさま」と、赤ちゃん連れのお母さんお父さんに配慮した上映会が「ママズクラブシアター®」です。通常より音量を小さくし照明を明るくするなど、お子様と安心して映画鑑賞ができる環境を整えています。

■ ママズクラブシアター® 体験レポート

ママズクラブシアター®を体験するべく、TOHOシネマズ 日本橋にお邪魔しました！今回レポートして下さるのは、育休中の東宝社員の河野美紀さんと川邊沙織さん。河野さんは1歳になる息子さんと、川邊さんは0歳と2歳になる娘さんと一緒に体験しました。



上映前にはベビーカーがずらり



河野美紀さん

場内にいる全員がお子さん持ちなので、子どもが泣いても動き回っても“お互いさま”。気後れせずとても居心地が良かったです。また、家で観るよりも映画の内容に入り込めたような気がしますし、育児中にも関わらず、映画館という特別な空間で映画を観ることができて嬉しかったです。

子ども達もとてもリラックスしていて、親子ともに楽しめました！家族のイベントとして利用するのにぴったりですね。育児中の私の友人にもどんどんお薦めしていきたいです。



川邊沙織さん

かけがえのない「文化財」を未来へ——アーカイブへの取り組み

エンタテインメントとしてだけでなく、「文化財」として映画を次世代に継承することは、東宝が果たすべき責任の一つです。

劣化しやすい映画フィルムを良好な状態で保存すること、さらに最新の技術を使って蘇らせ、一般に公開することを通じて、映画文化の継承に貢献していきたいと考えています。

最新技術を備えた専用施設でのフィルム保存

東宝は、国立機関のフィルム保管倉庫のクオリティに匹敵する最新の設備を持った専用倉庫を独自に建設し、保存に最適な環境を整備しています。倉庫内は適切な温度・湿度となるよう、効率的なシステムでエネルギー量も管理しています。古典的な名作を今後も世に出していくために、施設、フィルムとともに、定期的なメンテナンスを実施しています。

技術力を生かしたフィルムの高画質復元～名作『八甲田山』4K化へ～

東宝グループの東京現像所には、古いフィルムをデジタルに変換・修復し、オリジナルに近い映像に復元（デジタルリマスター）する最新技術を備えており、それを駆使する熟練した技術者が所属しています。2018年、『八甲田山』（1977年公開）の上映・放送に伴い、鮮やかな4K映像に復元しました。熟練の技術者が、デジタル機器を使用して取りこんだ映像に残るキズやホコリを取り去ります。1コマずつの地道な復元作業は、2か月もの時間を要しました。また、映像に施す色調整作業（グレーディング）では、厳しい撮影環境下で暗くなってしまった出演者の顔色や表情を、監督・カメラマンが本来表現したかった映像へと蘇らせることに成功しています。デジタル技術と熟練の技術者によって、フィルム作品を経年劣化から守り、貴重な情報を後世に残して作品未体験の若い世代まで名作をお届けしていきます。



東京現像所技術者による、フィルム復元作業の様子

Before



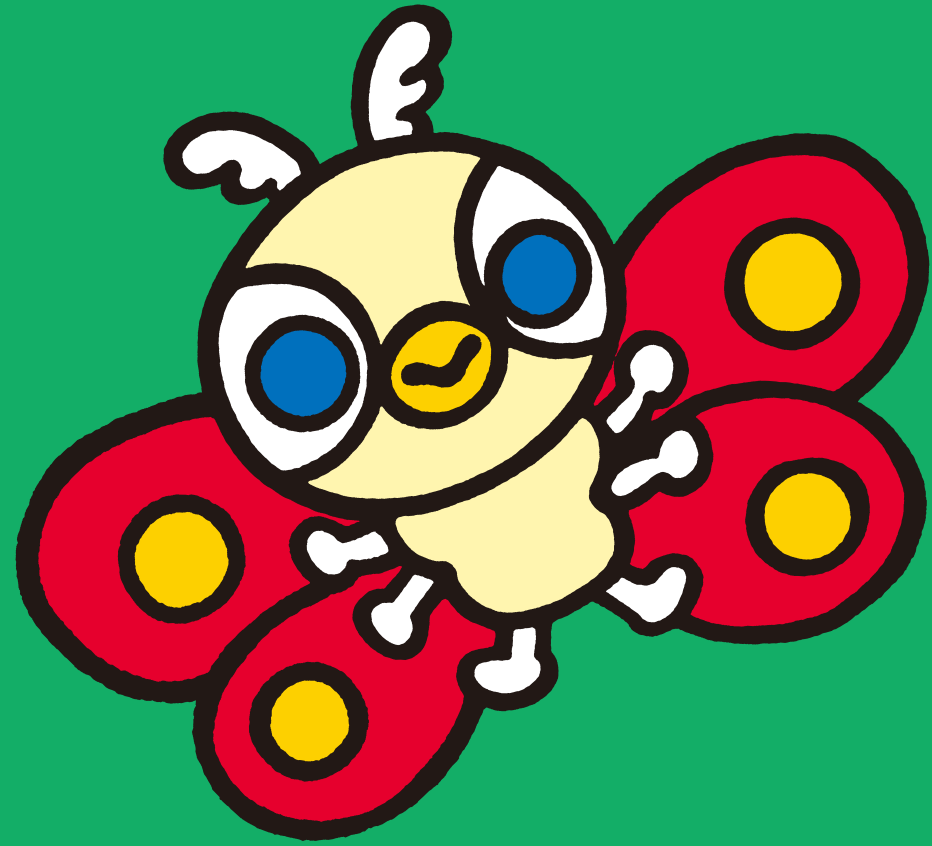
After



『八甲田山』復元前後比較画像

ENVIRONMENT & SOCIETY

環境・社会



IP（知的財産）を活用した社会貢献の取り組み

エンタテインメント企業ならではの新規事業

東宝グループでは、本業の三本柱の「映画・演劇・不動産」に加えて、今後も持続的な成長を続けていくための「新たな成長ドライバー」として、新規事業の拡大を検討しています。そこで、2017年より専門部署として経営企画部に「イノベーション推進室」を新設しました。その一つの取り組みとして、グループ社員が応募可能な既存の事業にとらわれない新しい事業やサービスを募集する「T・I・P (TOHO INNOVATION PROGRAM)」を開催しています。選考を通過した

事業案はグループ内を横断したプロジェクトチームを結成し、事業化を目指していきます。第1回の募集では、映画作品とロケ地の連動をはじめ、キャラクターやタレントなどグループ全体のリソースを総動員して地方のブランディングをしていく「地方創生事業」などの提案が採用され、実現に向けて動き出しました。今後も東宝グループでは、組織を横断したアイデアの創出に取り組み、本業と新規事業の拡大を通じて、企業と社会の持続的な発展に寄与していきます。

「ゴジラ」を活かした“おもてなし”の街づくり

巨大な「ゴジラ」の頭部が顔を覗かせる新宿東宝ビルは、2015年のオープン以来、施設内外で、数多くの映画関連イベントを実施し、新宿歌舞伎町のイメージ刷新の一翼を担ってきました。更に2018年3月には、東宝創業の地である日比谷の「日比谷ゴジラスクエア」に、「新・ゴジラ像」を設けて地域のシンボルとするなど、自社の保有するキャラクターをはじめとしたさまざまなコンテンツを活用して街の賑わいを演出しています。同年3月の成城警察署主催のイベント「交通事故撲滅大作戦」では、東宝スタジオを特別に開放。一日署長を拝命した「ゴジラ」を通じて、地域の方々に正しい交通マナーを広めるためのキャンペーンに協力しました。また、ゴジラの生誕日である11月3日には、より多くの皆様にゴジラの魅力を感じてもらうために「ゴジラ・フェス」を開催しています。ゴジラにちなんだ食べ物・通称「Gフード」の屋台や、初代ゴジラの着ぐるみによるグリーティングなど、子どもから大人まで楽しめる充実したイベントとなっています。2017年、第1回を新宿歌舞伎町にて開催し18,000人以上、2018年、第2回は場所を日比谷に移し19,000人以上の動員を記録しました。2019年は日比谷での開催に加えて、東宝スタジオツアーも実施予定です。



日比谷ゴジラスクエア



一日署長を拝命した「ゴジラ」



「ゴジラ・フェス2018」の様子(2018年11月3日)

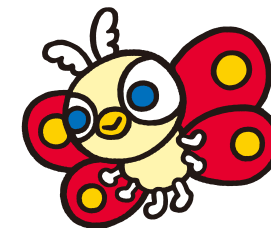


新宿東宝ビル

環境負荷軽減を実現する事業の展開

スバル興業での取り組み

東宝グループのスバル興業は、創業以来、「社会に奉仕すること」を企業理念として、道路関連事業・レジャー事業・不動産事業を展開しています。特に主力の道路関連事業では、環境負荷軽減を重点とした事業活動を推進しています。今後も各事業を通して豊かな生活を提供し、SDGsを意識した持続可能な社会の発展を目指していきます。



■ 水環境に配慮した「濁水処理システム」の確立

スバル興業は、1964年から道路メンテナンス事業に着手し、円滑な経済活動の維持と利用者の安全を守ること社会に貢献してきました。しかし、清掃作業や工事・事故処理作業で発生・回収した汚濁水の処理に苦慮してきた経験があり、長年にわたって問題解決の検討を重ねてきました。そこで、汚濁水を中和しながら浄化する、新しいタイプの無機系凝集剤「水澄まいる（ミズスマイル）」の開発に至りました。（凝集剤とは、汚濁水に分散している粒子を集合させ、沈降を促進するために用いられる薬剤）本製品を汚濁水の処理に用いることで、浄化作業工程が省略化されるだけでなく、廃棄物の削減にも貢献します。さらに、新たに開発した「濁水処理機」、「加圧型脱水機」と併用し、独自の「濁水処理システム」を確立させたことで、各種廃水や汚泥・放射性物質等の除去へと事業範囲を拡大しました。

無機系凝集剤
水澄まいる
ミズスマイル

「凝集剤」投入イメージ

1. 適量を投入

2. 攪拌する

3. 処理完了

浄化された処理水（上澄水）は排水または再利用することが可能です

■ 持続可能な環境保全のために

スバル興業の「濁水処理システム」を利用した技術は、東日本大震災復興支援にも活かされ、福島県内各地の道路や住宅における「放射性物質の除染業務」等に貢献しました。また現在では、その道路除染の経験を活かし、「ため池浄化業務」等で環境保全の一端を担うとともに、汚濁水の処理に取り組む官公庁や企業に、「水環境保全商品」として「水澄まいる」を導入していただくことで、さまざまな現場での水環境保全を促しています。スバル興業は、今後も環境に配慮した技術や製品のさらなる開発に取り組んでいきます。



高圧洗浄吸引による除染



ミニスーパーによる除染水回収

ため池浄化業務

1. 池底での洗浄と汚濁水汲み上げ

2. 浄化前の汚濁水

3. 濁水処理機【自社開発】で汚濁水を浄化

4. 浄化された水は放流と再利用

5. 加圧型脱水機【特許取得】で浄化後の汚濁物を減容化

6. 減容化された廃棄物

お客様の安心・安全への取り組み

東宝は、お客様に「安心」してエンタテインメントを楽しんでいただくため、「安全」の確保は最重要の課題・責任であると考えています。お客様の安全を守り、社会に信頼される企業であるため、日頃から防災・防犯活動に努めています。

防災への取り組み

1958年に旧東京宝塚劇場で発生した火災を教訓に、以来東宝では所有する各ビルで「自衛消防隊」を編成しています。日比谷の本社ビルでは、毎年丸の内消防署の協力を得て緊急事態を想定した消防訓練を実施し、「東京駅周辺防災隣組」をはじめとした防災コミュニティに参加するなど、日々防災活動の推進に努めています。2019年、丸の内消防署・丸の内災害予防普及会主催による、企業や団体ごとに設置されている「自衛消防隊」が訓練を競う審査会が開かれました。参加した25隊中、東宝ファシリティーズの有楽町センタービル自衛消防本部隊が見事に優勝、東宝日比谷ビル自衛消防隊が3位入賞という素晴らしい結果を残しました。



自衛消防隊表彰の様子

防犯への取り組み

東宝は、本社エリアの丸の内・有楽町地区の主な警察関連団体の役員も務めています。関係団体合同による街のパトロールに参加し、ひったくりや万引きなど街頭犯罪の抑止活動にも協力しています。管轄の行政機関と地域の安全に取り組み、治安の良い街で安心してエンタテインメントを楽しんでいただけるよう努めています。



ゴミ拾いを兼ねた防犯パトロールの様子

丸の内警察・防犯功労表彰

2019年6月、東宝は丸の内警察署と丸の内防犯協会より、感謝状を授与されました。日頃より丸の内地区の地域安全活動を積極的に推進し、安全で明るく住みよい街づくりに貢献したことによる表彰です。



防犯功労表彰の様子

消防への取り組み

2018年には、東宝の継続的な消防行政協力や、帝国劇場の秋の火災予防行事「火災予防安全もちつきまつり」など消防広報への積極的な協力実績に対して、それぞれ消防総監感謝状をいただきました。いつ起こるかかわからない火災に対して、日ごろの訓練や予防にも注力していきます。

劇場の安全への取り組み

東宝グループの映画館・演劇劇場では、お客様に安心して作品をお楽しみいただけるように、劇場単位での救命講習、避難訓練をおこなっています。さらにTOHOシネマズでは、足元灯の小まめな点検、ガラス張りの内装の見直し、専門コンサルタントの指導のもと、大震災を想定したリアルタイム型シミュレーション訓練など、安全を最重要視した取り組みを進めています。

訓練・講習会の実施

防災訓練実施数

(本社ビルや各劇場において)

年間 **2回**

救命講習実施数

帝国劇場・シアタークリエ・本社地区
勤務者の受講数(再受講者含む)

2018年受講者 20人 / 2019年受講者 33人

20人 / 33人

※2019/8/21現在

2010年より
のべ
459人

救命講習優良表彰(3年に一度)

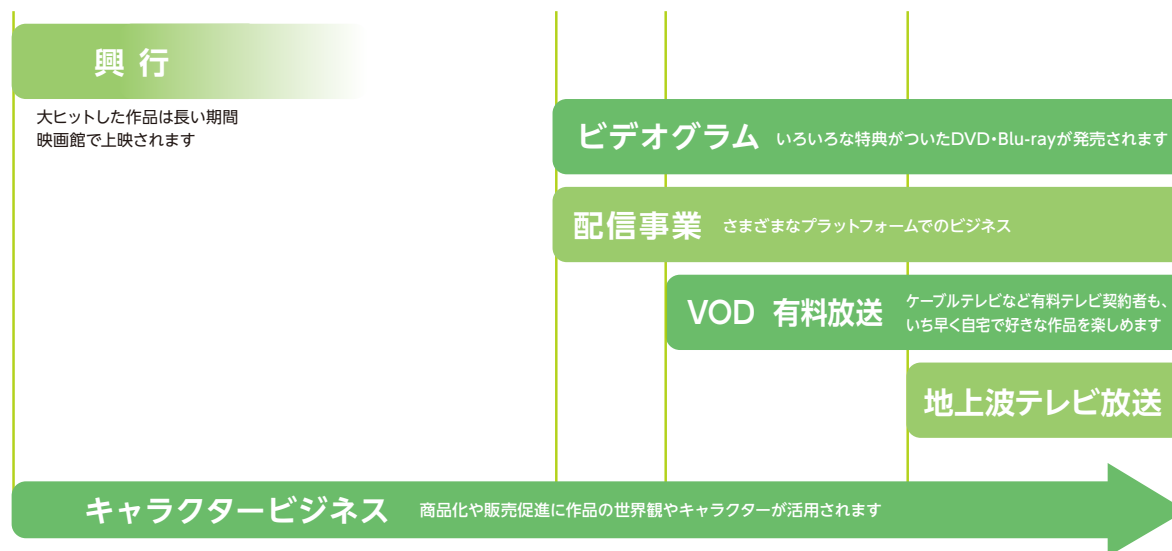
帝国劇場・シアタークリエは、2010年、2013年、2016年と連続受賞

多様な鑑賞機会の創出とIP（知的財産）の有効活用

映画は、映画館での上映を皮切りに、形を変えてお客様のもとに届けられます。キャラクター商品やパンフレットなどのマーチャндаイジング、公開後はDVD・Blu-ray、配信やテレビ放送など、お客様のニーズに合わせた多様なビジネス展開によって、鑑賞機会を提供しています。同時に、貴重なIPを守るべく、万全の管理体制も整えています。

リリースタイミングのコントロール ——映画、ビデオ、配信、テレビ

一つの映像作品でのビジネスは多層的に、多岐にわたり展開していきます。東宝は「健全な娯楽を広く大衆に提供すること」という視点から、お客様にコンテンツを鑑賞していただく機会をさまざまな形で提供します。また、媒体の特性にあわせてリリースタイミングの調整（ウィンドウ・コントロール）をおこない、収益も最大限上げていく努力をしています。



IP（知的財産）の管理体制：東宝のリスク対策

東宝では、会社が所有する映画をはじめとしたIPを守るため、適時、インターネット上に違法にアップロードされた動画ファイルの削除対応をおこなうほか、CODAやJVA、MPAJ^{※1}といった団体との連携や、税関での水際対策の働きかけをおこなっています。また、コンテンツ保護の観点のみならず、第三者への権利侵害がないよう、入社時から折に触れて著作権に関する講習を実施するなど社内啓蒙にも努めています。

また、劇場用実写映画およびアニメ作品など映像コンテンツの製作にあたっては、シナリオの段階から法務部も交えて社内チェックを十分におこない、コンプライアンス上、社会通念上、問題となるおそれのある差別的な表現・描写や第三者への権利侵害がないよう十分な配慮を心掛けています。

※1・・・CODA：コンテンツ海外流通促進機構／JVA：日本映像ソフト協会／MPAJ：日本音楽出版協会

コンテンツ価値の最大化をめざして

東宝は2018年、映像本部内に“デジタル・コンテンツ営業室”（通称デジコン）を新設しました。デジコンでは、新作のみならずデジタル化した旧作コンテンツのテレビ番販やネット配信、機内上映、映像使用の国内セールス業務を、社内のノウハウを集結しておこなうほか、他社へのビデオ化権ライセンスや国立映画アーカイブ等への窓口も務めています。

デジコンが取り扱う作品の一例



「浮雲」©1955 東宝



「タッチ」©あだち充/小学館・東宝・ADK



「傷だらけの天使」©東宝



「キングコング対ゴジラ」ポスター

また、より豊富なラインナップを揃えるべく、作品を修復・デジタル化し、新たな鑑賞機会を創出することでコンテンツ価値の最大化を図っています。代表的な例として、『キングコング対ゴジラ』（1962年公開）の〈完全版〉4Kデジタルリマスター作成が挙げられます。本作は、1970年の東宝チャンピオンまつりでの再公開時に、一部のネガフィルム原版が行方不明になってしまい、初公開時の完全な状態での劇場上映は不可能な状況でした。しかし、長年の捜索で行方不明だった原版の一部が見つかり、その都度HDテレシネ（*1）をおこなうことで放送・ソフト化してきました。2016年には長年の捜索でも見つからなかった約23分のネガフィルムが新たに発見され、全てのネガフィルムが揃ったことから、全編4Kスキャン・レストア（*2）を実施。同年7月にはCS放送局で4Kデジタルリマスター版や2Kダウンコンバート（*3）版をそれぞれ放送し、TOHOシネマズ 新宿でイベント上映もおこないました。

*1…テレシネ：フィルム映像をテレビジョン信号に変換する作業。

*2…レストア：画面に残っているキズ、ホコリ、シミなどをデジタル処理で取り去っていく作業。

*3…ダウンコンバート：高解像度で収録された映像を低解像度の映像に変換する作業。

Before



After



「キングコング対ゴジラ」



TM&©1962 TOHO CO., LTD

未来のお客様とクリエイターのために ―次世代育成への取り組み

次世代を担う若い「才能」を育成するため、映画・演劇などを通じた「東宝グループらしい」さまざまな活動に取り組んでいます。

新たな「才能」の発掘へ

東宝は、「TOHO VISION 2021 東宝グループ中期経営戦略」で掲げた「優れたクリエイターとのパートナーシップ強化」として、2018年6月に、住友商事傘下のデジタルメディア事業社 AlphaBoat 合同会社と資本業務提携をし、その一環で才能発掘プロジェクト「GEMSTONE」を立ち上げました。プロ・アマ問わずYouTubeなどのSNSプラットフォームを活用した上で、毎回テーマに沿った作品を投稿するクリエイターの中から優れた才能の「原石」を発掘します。入賞者には当社のプロデューサー陣による作品の監修や助言、及び当社映像作品の製作機会の提供を通して、映画やアニメの監督及び音楽家やタレントなどを育成していきます。第1弾は“ゴジラ”をテーマに募集し、入賞したクリエイターと東宝で具体的な企画開発をスタートさせています。オーディションは第2弾以降も継続的に開催し、新たなクリエイターの発掘・育成に取り組んでいます。



受賞をきっかけに制作された「怪獣人形劇ゴジばん」は2019年8月9日より毎週金曜17時～東宝特撮チャンネルにて配信

募集テーマ	内容
第1弾 ● ゴジラ	「ゴジラ」の世界観にインスパイアされた、映像(アニメ・実写・CG)や音楽・イラストなどさまざまなジャンルのオリジナル作品を募集
第2弾 ● With Japan!	「COOL」「POP」「伝統」「デジタル」など、日本の魅力を世界に向けて発信することができるキャラクターを、日本のみならず世界中のクリエイターから募集
第3弾 ● 西尾維新 『ヴェールドマン仮説』	『《物語》シリーズ』など数多くの人気作を生み出した、西尾維新の記念すべき100冊目の小説となる、『ヴェールドマン仮説』のプロモーション映像を募集
第4弾 ● 新宿アニメクリエイター オーディション	さまざまな個性や隠れた魅力にあふれている「新宿」という街から連想できる、あらゆるものを題材にした短編アニメーションを募集

「ndjc:若手映画作家育成プロジェクト」への参加・協力

東宝グループの東宝映画は、映像産業振興機構(VIPO)が2006年から文化庁より受託しておこなっている人材育成事業「NEW DIRECTIONS IN JAPANESE CINEMA(ndjc):若手映画作家育成プロジェクト」にて、短編映画作品製作に協力しました。関連団体の推薦とワークショップを経て選ばれた3～5名の作家が35ミリフィルムでの撮影で短編映画を制作する研修をおこないます。東宝映画は昨年までの13年間に4人の若手作家の短編制作を支援しました。

ndjc2018で制作された映画は、東京、京都、大阪、名古屋にて上映されました。また、ndjc出身監督の活躍として、昨年度は藤村亨平監督作品『パパはわるものチャンピオン』、松永大司監督作品『ハナレイ・ベイ』などが公開されました。当社配給作品においても、2018年には中江和仁監督作品『嘘を愛する女』が公開され、2020年には中野量太監督作品『浅田家(仮)』の公開が控えるなど、新たな才能の活躍が期待されています。

地域学校協働活動への参加

東宝は、子どもたちの未来や夢を応援するために、希望する小・中・高への出張授業や企業訪問の受け入れをおこなっています。内容としては、映画が作られる工程を説明する「映画ができるまで」というプログラムを中心に、「キャリア教育」や「著作権」へも触れるなど、幅広いテーマの講義をおこなっています。2018年は、企業訪問として36校・170名、出張授業として中学校1校、高校1校・計600名の学生へ講義を行いました。

さらに、文部科学省が推進する、企業や団体が子供たちの豊かな学びを支援する「土曜学習応援団」の取り組みに賛同し、2019年は文部科学省主催の「こども霞が関見学デー」へ2年連続参加しました。また、阪急阪神ホールディングス株式会社が「阪急阪神未来のゆめ・まちプロジェクト」において掲げるSDGsへの取り組みに賛同し参加しました。両イベントにおいて、子どもたちに実際に映画のポスターづくりを体験してもらうなど、当社の事業への理解を深めてもらいました。これからも東宝は、質の高いエンタテインメント学習の機会を提供していきます。



「こども霞が関見学デー」の講義の様子(2019年8月8日)



「阪急阪神 未来のゆめ・まちプロジェクト」のポスターづくりの様子(2019年8月5日)



東宝スタジオでの効果音収録体験の様子(2019年7月26日)



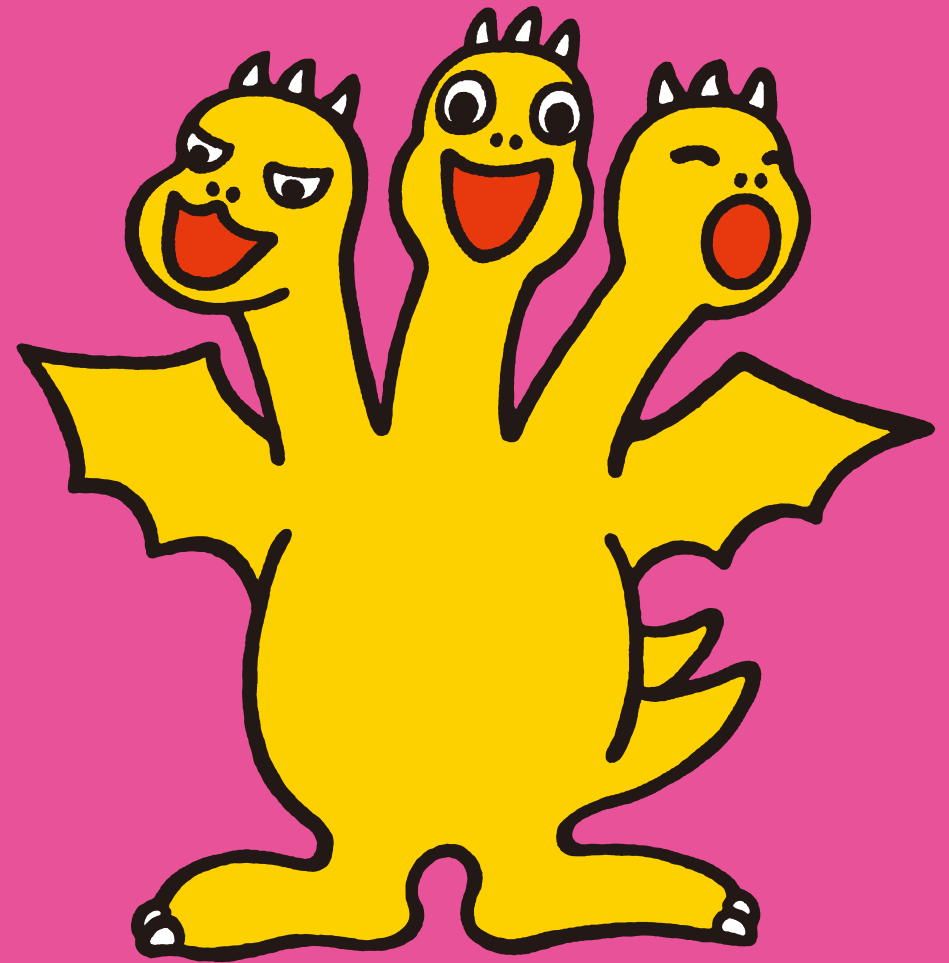
東宝スタジオでのダビングステージ2見学の様子(2019年7月26日)

家族向け職場見学会の実施

東宝グループ社員の家族もステークホルダーとして大切に考えています。2016年から毎年1回、家族職場見学会を開催し、就学児童を中心に東宝グループ社員の家族を招待して、会社の事業の理解を深めてもらう機会を設けています。

DIVERSITY & HUMAN RESOURCES

多様性とひと





人材育成——朗らかに、清く正しく美しく

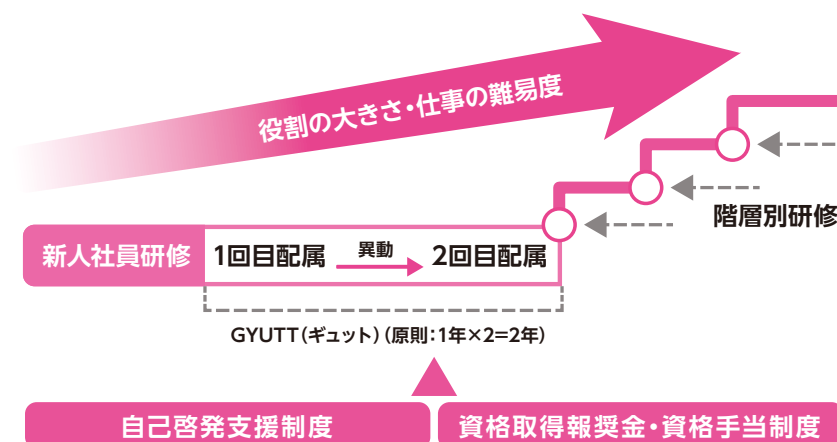
東宝は、事業活動そのものによって社会的責任・使命を果たしていくことが、CSRの基礎となると考えています。

そのために、社員一人一人が持てる能力を最大限に発揮し、生き生きと働くことのできる会社を目指して、さまざまな人材育成策を実施しています。

主な人材育成制度

将来的に会社経営の根幹を担うべく、入社時から経験とキャリアに応じて、ビジネスに必要な基本スキル習得から個々の適性や自発性に基づいた能力アップを図るための各種研修プログラムを用意しています。

若手育成制度「GYUTT」(ギュット)	新入社員が2年間で2部門を経験し、入社3年目から活躍できるような育成をおこなっています。
評価を通じた人材育成	仕事上の課題や自身のキャリアアップについて、今後の自らの目標を具体的に記したシートを作成します。それをもとに、1年に複数回面談を設け、詳細な行動計画やキャリア形成を話し合うことで社員の成長を促します。
ジョブチャレンジ制度	一定の条件を満たした社員が、異動希望部門に応募し、部門のニーズと合致すれば異動が実現する制度。キャリアアップを望む社員の主体的なキャリアデザインを支援します。
自己啓発支援制度	仕事に必要な通信教育の受講料の8割を補助することで社員の学習意欲を向上させます。公的資格を取得した際には、手当を支給。社員の能力アップを支援しています。



社員データ

「少数精鋭」「適材適所」という人事方針のもと、適正な人員構成を実現しています。

		社員数	平均勤続年数	平均年齢
2016年度 (2017年2月末時点)	男性	196名	16.0年	39.3才
	女性	89名	15.1年	38.9才
2017年度 (2018年2月末時点)	男性	224名	15.1年	39.6才
	女性	96名	15.0年	38.9才
2018年度 (2019年2月末時点)	男性	225名	14.6年	39.7才
	女性	101名	13.4年	38.5才

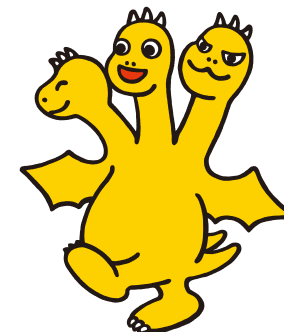
*この表には、嘱託・出向受入者を含みません。

低い離職率

充実した研修制度や丁寧なフォローアップで、低い離職率を維持しています。

		定期大卒採用者	退職者 [2019.6.1現在]
2016年度	男性	7人	0人
	女性	3人	0人
2017年度	男性	9人	0人
	女性	3人	0人
2018年度	男性	6人	0人
	女性	4人	0人
計		32人	0人

離職率
0%





“オール東宝”で挑む、柔軟な組織づくり

東宝は、部門を横断した組織づくりを展開し、社員の柔軟な発想を大切にしています。

その取り組みの一つ、「ゴジコン（ゴジラ戦略会議）」が鋭意活動中です。「ゴジラ」の価値をさらに高めるためにどうすべきか、包括的に検討、推進していくために東宝グループ全体からメンバーを選出しました。「ゴジラ」というキャラクターの魅力を、往年のファンから「ゴジラ」未体験層まで、幅広くアピールするための戦略的な企画を立案・実行しています。当社の最重要IPである「ゴジラ」

の持つ可能性を最大限に引き出し、ビジネスとして大きく育てるために、メンバーそれぞれのキャリアや所属部門の特性が活かされた議論を交わしています。多様な活躍の場を提供することで、社員の能力を様々な面から引き出すことも狙いです。その他にも、下記のような組織・制度をつくり、新たなビジネスチャンスの創出を日々模索しています。

部署を横断した制度・組織など

ゴジコン (ゴジラ戦略会議)

「ゴジラ」の価値をより高めるために発足。映画以外でも、数々の「ゴジラ」とのタッチポイントを創出しています。グループを横断し、メンバー構成をしています。

ヒロアカコン (ヒロアカ カンファレンス)

2016年4月より放送を開始したテレビアニメ『僕のヒーローアカデミア』を、東宝グループを代表するキャラクターに大きく育てるため発足。2018年8月3日（金）に劇場版を公開し、大ヒットを記録しました。2019年12月20日（金）にも新作の公開が控えています。

イノコン (イノベーション カンファレンス)

東宝グループが、中長期の持続的成長を実現するために、新規領域への事業拡張や本業の更なる深堀・強化といった「イノベーションの創出」を目指し発足。新規事業企画コンテストを東宝グループ内で実施し、多種多様な企画が集まりました。このアイデアの種が「新たな成長ドライバー」として開花することを目指しています。

GEMSTONE プロジェクト

YouTube及びSNSを活用した才能発掘プロジェクトチームです。各部署の若手社員を中心に構成され、ジャンルやプロ・アマを問わずさまざまな「原石」を発掘し、将来の東宝、映像ビジネスを担う「才能」を育成していきます。

副所属／ アソシエイトメンバー

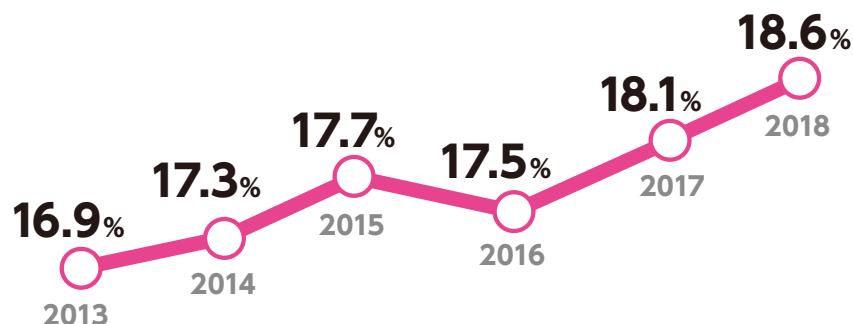
所属部署とは異なる部門に「副所属」「アソシエイトメンバー」という形で在籍することで、他部門の事業範囲でも本人の持つ能力や知見を活かします。2019年8月現在、計9名の社員がこれらの肩書を保有して活躍しています。

ダイバーシティ (多様性) 推進

性別、年齢、障がいの有無に関わらず、多様な人材の活躍を推進、支援するとともに、企業として持続的に成長していけるように取り組んでいます。

東宝における管理職 (課長級以上) 女性比率

*各年末の数値



女性活躍推進

2018年、当社グループの主要な会社である東宝東和において女性社長が誕生いたしました。グループ全体でも女性管理職の割合が徐々に増加傾向にあり、活躍の場が広がっています。

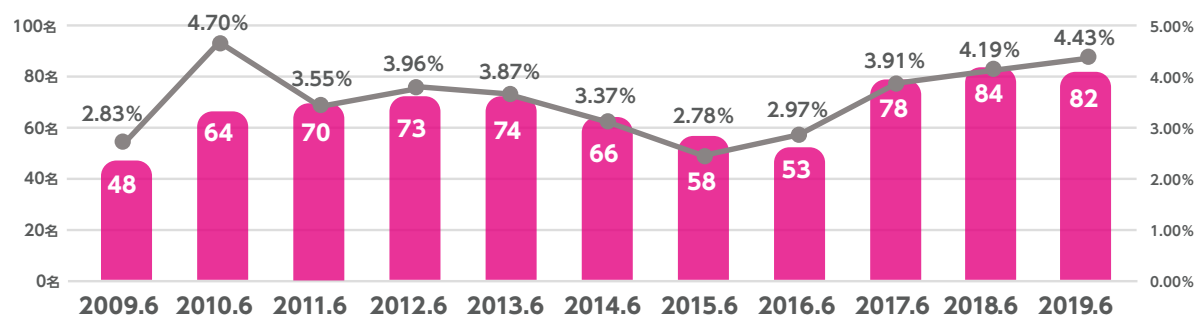


障がい者雇用率と 雇用者数の推移 (TOHOシネマズ)

TOHOシネマズの障がい者雇用率の推移

TOHOシネマズでは、ノーマライゼーションの理念の実現に向け、障がい者雇用に取り組んでいます。2019年6月時点で82名、障がい者雇用率は4.43%となり、法定雇用率2.2%を大きく上回っています。清掃や接客業務など、全国のTOHOシネマズの劇場スタッフとして、さまざまな障がい特性に応じた業務の切り出しをおこなっています。

より詳細な取り組みなどは、TOHOシネマズのホームページをご覧ください。
<https://www.tohocinemas.co.jp/csr/index.html>



障がい者雇用率向上を目指した様々な取り組み

TOHOシネマズでは、地域の支援機関や特別支援学校などと密に連携し、職場実習を積極的に実施しています。実習によって職場と求職者の相互理解を深めることで、採用のマッチング精度が向上するだけでなく、就業経験の少ない求職者が自身の業務適性を理解する機会にもなるなど、地域の障がい者雇用の発展に大きく貢献しています。こうした長年の取り組みにより、今では全国どこの映画館でも障がいのある方と一緒に働くことがTOHOシネマズの日常となっています。



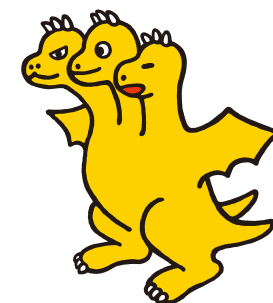
就労支援員向けセミナーの様子
TOHOシネマズ株式会社
人事労政部人材開発室
第2号職場適応援助者(ジョブコーチ)
塚原真樹さん

また、支援機関と企業との円滑なコミュニケーションを推進する取り組みも始めています。今年度は、一企業の取り組みとしては前例のないことですが、『「企業目標を理解する」セミナー』を開催し、企業の障がい者雇用に対する考え方や企業担当者との関わり方などについて支援機関の皆さまに理解を深めていただきました。今後も全国各地で雇用の創出に努め、多くの方に愛される映画館をめざしていきます。

東宝らしい働き方の追求

社員が働きやすい職場環境は、時代によって変わっていきます。

多様な働き方を支援するために、制度を整えつつ、その制度がきちんと運用される企業風土づくりにも力を入れています。



心身共に充実して働くための新制度

東宝では2019年1月より、有給休暇取得を促す新制度「ゆうゆうProject」を始動しました。「有給休暇は、ただ休むということだけではなく、各人が有効に休暇を活用し、ココロをのびやかに（悠）、しなやかに（優）することで、次の仕事にもつながるもの」と考えています。そのための会社のアクションが、各人の有意義な時間の形成にしてほしいという思いでプロジェクトをスタートさせました。

各部署の若手・ベテラン社員からそれぞれ選定されたリーダーの働きかけによって、あえて紙のカレンダーを用いて個人の取得予定を「宣言」して「見える化」します。また、連休と組み合わせた東宝独自の取得推奨プランも用意されています。

育児休職者数と取得率

育児休職者数と取得率			
(各期末時点)	2016年	2017年	2018年
育児休職者数	4名	9名	12名
女性社員の出産後の育児休職取得率	100.0%	90.0%	100.0%

*なお、育児休職取得後の社員の復職率は100%で、さまざまな部署で活躍しています。

育児との両立など多様な働き方の実現をサポート

東宝は育児による時短制度に加えて、フレックスタイム制度やコアタイムのないスーパーフレックスタイム制度を導入し、ライフスタイルに合わせた勤務制度づくりに取り組んでいます。



演劇部企画製作グループ企画編成室副室長
山崎奈保子さん

\\ VOICE //

私は産休・育休を経て、演劇部企画編成室に復職をしました。現在は企画編成副室長として柔軟な勤務時間制度を利用して育児をしながら、演劇作品の編成と企画を担当しています。スーパーフレックスタイム制度を活用することで保育園の送り迎えの時間に合わせながら、自分のペースで仕事をすることができています。育児をする社員を温かく見守ってくれる社風と、それぞれの家庭環境や生活に合わせた勤務ができる手厚い制度に感謝しています。



社員の健康をサポートする取り組み

東宝は「健康経営」を目指して、2020年4月に施行される健康増進法の一部改正法及び東京都受動喫煙防止条例に先駆け、2019年9月より従業員の健康維持増進を目的とした、「クリーン・エア プロジェクト」を実施しています。本年8月より喫煙ルームを廃止し、受動喫煙の防止と同時に従業員の禁煙サポートもおこなっていきます。2020年4月からは「就業時間中の全面禁煙」の実施を予定し、社員の「健康経営」への理解を深めていきます。



メンタルヘルスケアやハラスメント対策

東宝では、社員の「こころの健康」にも目を配っており、健康保険組合直営の診療所で専門医による診察を受けることができます。一定以上の長時間勤務が発生した場合には、医師による面談が実施され、職場へのフィードバックも行います。ハラスメント対策については相談窓口を設置するほか、研修を実施することで、社員が力を発揮しやすい職場環境の充実を図っています。



労使関係

東宝には、管理職以外の全員が加入するユニオンショップ制の労働組合があり、連合（日本労働組合総連合会）に加盟しています。会社と労働組合は、より良い職場環境をつくりあげようと、「働き方改革」をはじめとしてさまざまな課題に、ともに取り組んでいます。



インナーコミュニケーションの活性化

東宝らしい働き方を実現するためには、風通しの良い企業風土醸成も重要と考えています。62年続く社内報「宝苑」を年に6回刊行し、グループ全体の社員、イベント、トピックをさまざまなアングルから紹介しています。また、社内の有志で結成された部活動の運営に補助金を拠出するなど、インナーコミュニケーションの活性化を図り、より良い職場環境づくりに取り組んでいます。

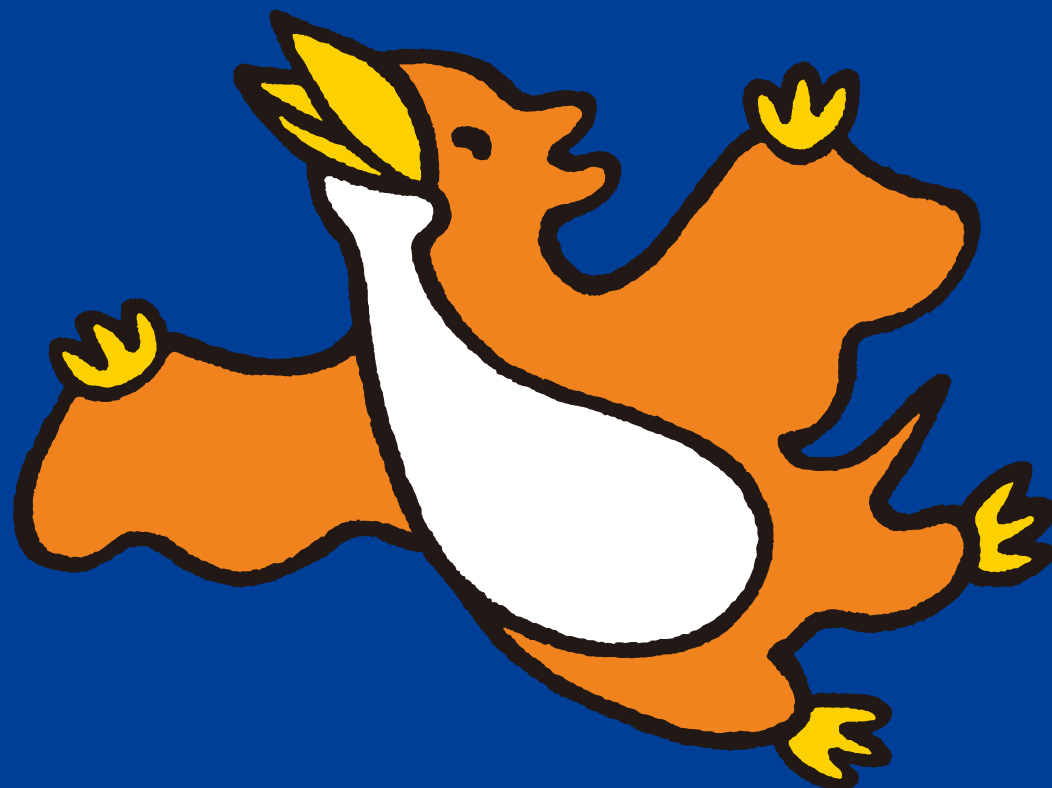


多様な働き方を支援する主な制度

勤怠管理システムの導入	● 時間管理の意識向上(勤務時間の見える化)
産業医の面談	● 一定以上の勤務時間の社員の健康管理
健康診断の受診率	● 毎年の健康診断の受診を積極的に働きかけており、昨年度の受診率はほぼ100%
積立休暇	● 未消化の年次有給休暇を1年度につき5日、最大40日まで積立て、社員や家族の病気療養、自己啓発やボランティア活動に利用可能
夏期休暇	● 年次有給休暇と別に、6月から10月に取得できる5日間の休暇を付与
フレックスタイム制度	● 社員が日々の勤務時間を柔軟に選択可能
スーパーフレックスタイム制度	● 業務の実態・職種の性格に合わせ、さらに柔軟な勤務を可能とするため、一部の部門でフレックスタイム制度のコアタイムを廃止
育児時短勤務	● 1日2時間まで取得可能 (子が満9歳で小学校3年終業まで)
介護時短勤務	● 1日2時間まで取得可能 (同一人に対し通算3年以内：分割取得可能)
育児休職	● 子が満2歳の誕生日が属する月の末日を限度に取得可能
育児休職中の自己啓発支援制度	● 育児休職中、会社が用意する自己啓発コースの受講費用を全額負担
介護休職	● 通算して1年以内取得可能 (社会保険料負担分を介護補助金として支給)
ゆうゆうProject	● 有給休暇取得を促す制度

CORPORATE GOVERNANCE

コーポレート・ガバナンス



信頼される企業であり続けるために――

基本方針

東宝グループは、小林一三による創業以来、「健全な娯楽を広く大衆に提供すること」を企業の使命とし、「吾々の享くる幸福はおお客様の賜ものなり」の価値観を共有しつつ、「朗らかに、清く正しく美しく」を行動理念とし、すべてのステークホルダーの皆様信頼され続ける企業でありたいと考えています。

そのために当社は、経営の重要課題の一つとしてコーポレート・ガバナンスの充実を位置づけ、会社の機関設計として「監査等委員会設置会社」を採用し、取締役会における迅速かつ適正な意思決定および社外取締役による監督・監査機能の強化を図り、経営の透明性・公正性の確保に努めています。

また、「東宝憲章」「東宝人行動基準」を制定し、コンプライアンスの意義をグループ従業員に周知徹底するとともに、グループ全体での内部統制システムやリスク管理体制の構築・整備を図っています。

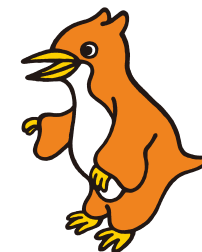
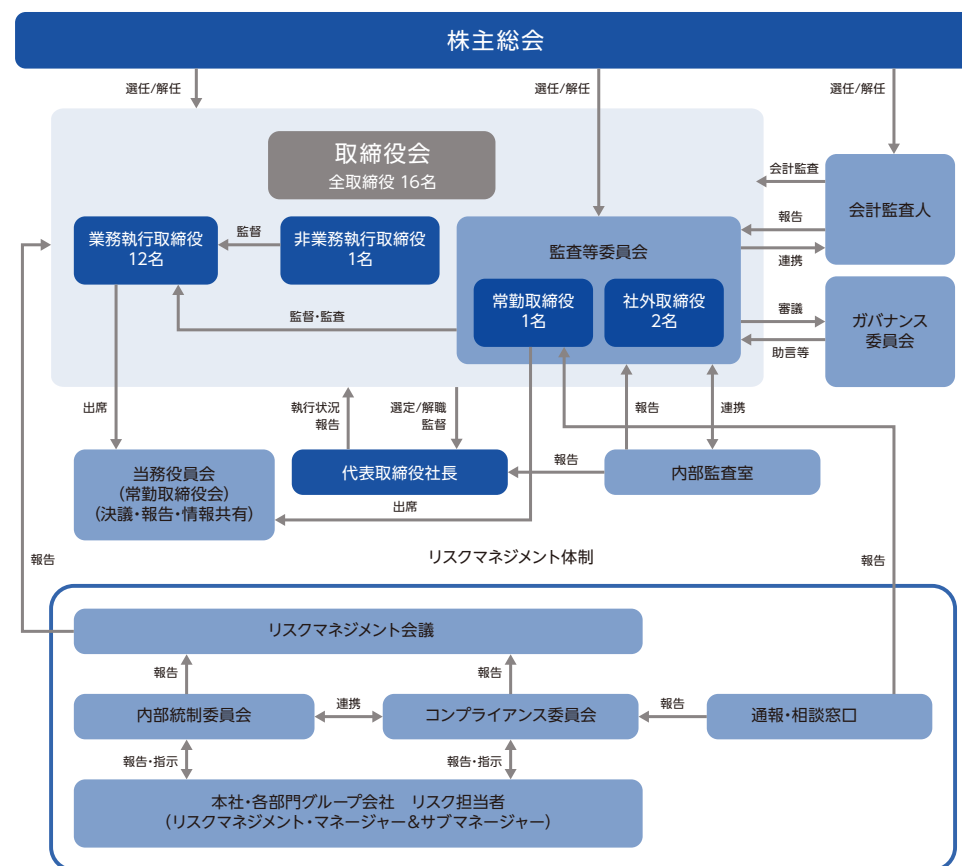
東宝憲章

私たちは、良き企業市民でありたいと切に願い、創立者小林一三翁の言葉「朗らかに、清く正しく美しく」「吾々の享くる幸福は、お客様の賜ものなり」の理念を受け継ぎ、文化と経済の発展に積極的に寄与するため、次のとおり宣言します。

1. 私たちは、広くお客様の満足を得たいと願い、質の高いサービスと商品を提供します。
2. 私たちは、株主の皆様への付託に応えたいと願い、法令および企業倫理を遵守し、反社会的勢力との関係を排して、経営の健全性を確保するとともに、適時に適切な経営情報の開示をおこない、会社財産を有効適切に活用することによって業績の向上と会社の持続的な発展を図ります。
3. 私たちは、市場での信望を確立したいと願い、公正な取引をおこないます。
4. 私たちは、従業員が仕事を通じて自己実現を図ることができる会社でありたいと願い、互いの人格と個性を尊重し合い、それぞれの能力を最大限に発揮できる働きやすい快適な職場環境を作ります。
5. 私たちは、それぞれが良き社会人としての自覚をもち、人権を尊重し、地域に貢献し、自然環境の保全に意を配り、もって企業の社会的責任を果たしたいと願います。

コーポレート・ガバナンス体制 (2019年5月24日現在)

当社は、以下のようなコーポレート・ガバナンスの体制を整えています。



取締役会の構成 (2019年10月1日現在)

役職	氏名	担当および重要な兼職
代表取締役社長	島谷 能成	映像本部長 内部監査室直轄
専務取締役	太古 伸幸	経営企画、人事、総務各担当兼不動産経営管掌
常務取締役	浦井 敏之	経理財務、情報システム各担当兼特定取締役
常務取締役	市川 南	映像本部映画調整、同映画企画各担当
常務取締役	瀬田 一彦	映画興行担当 TOHOシネマズ(株)代表取締役社長
常務取締役	松岡 宏泰	映像本部映画営業、同国際、同番組販売各担当
取締役	角 和夫	阪急阪神ホールディングス(株)代表取締役会長 グループCEO
取締役	山下 誠	不動産経営担当
取締役	池田 篤郎	演劇担当
取締役	大田 圭二	映像本部映像事業、同音楽事業担当
取締役	池田 隆之	映像本部宣伝担当
取締役	枇杷 浩史	人事担当補佐
取締役	加藤 陽則	経理財務担当補佐
取締役(常勤監査等委員)	沖本 友保	監査等委員会委員長
独立社外取締役(監査等委員)	小林 節	(株)パレスホテル代表取締役会長
独立社外取締役(監査等委員)	安藤 知史	弁護士

当社は、監査等委員会設置会社であり、取締役16名により構成されています。そのうち監査等委員である取締役は3名です。また、独立社外取締役は2名となっています。

取締役会によるガバナンス

当社の取締役会は、原則として毎月1回の定例取締役会を開催するほか、必要に応じて適宜開催しています。取締役会では、「取締役会規則」に基づき、経営方針、中期経営戦略に関わる事項や、重要性の高い意思決定について、社外取締役を含めた活発な議論をおこなっています。

当社は、執行役員制度を設けておらず、あくまで株主総会で株主様の付託を受けて選任された取締役が、各事業・業務の担当役員として責任を持って業務執行に当たることを基本方針としています。したがって、社内取締役はすべて、当社の主要事業またはコーポレート業務に関して専門的な知識、豊富な経験、高い職務執行能力を有し、現場を熟知した者で構成されています。取締役会は、それらの業務執行取締役が担当分野を過不足なくカバーできるよう、バランス良い配置に努めています。

上記の方針により、当社取締役会は、業務執行取締役によるオペレーションおよびマネジメント機能と、独立社外取締役が過半数を占める監査等委員会によるモニタリング機能のいずれにも偏らないハイブリッド型の取締役会として、効率性とバランスを重視した独自のコーポレート・ガバナンス体制を追求してまいります。

監査等委員会

当社の監査等委員会は、監査等委員である取締役3名(うち独立社外取締役2名)で構成されています。監査等委員会は、取締役の職務の執行を適切に監督・監査するとともに、独立社外取締役によるモニタリング機能を多面的に活用することで、取締役会のガバナンス全般の透明性・公正性の確保に寄与しています。

■ガバナンス委員会の新設

当社は2019年5月、取締役の人事と報酬の決定に関する手続きの客観性・透明性を確保するため、取締役会の下にガバナンス委員会を設置しました。

ガバナンス委員会は、代表取締役と独立社外取締役とで構成される委員会であり、取締役の選解任をはじめとする人事並びに報酬に関する事項全般について審議をおこないます。

取締役会は、ガバナンス委員会における審議内容を踏まえた決定をおこないます。

リスクマネジメント体制

グループ全体のリスク管理体制を整備するため、「リスクマネジメント基本規程」を定め、代表取締役社長を議長とする「リスクマネジメント会議」を設置しています。「リスクマネジメント会議」は事務局を本社総務部に置き、当社グループのリスクマネジメントに関する方針と体制を決定するとともに、リスク発生時の連絡・報告体制、危機管理体制を構築しています。

「リスクマネジメント会議」は年2回開催され、東宝グループにおいて発生したリスク事象の検証や発生が想定されるリスク予防策の検討、他社事例の共有などをおこなっています。また、毎年グループ内で想定される重要なリスクをテーマとして、各事業所における対応状況などを調査し、内部監査室による評価・指導をおこなうなど、組織的なリスクマネジメントの観点から、グループ全体でのPDCAサイクルを回しています。

また、本社各部門、各グループ会社それぞれに「リスク担当者」を置き、「リスク担当者会議」を年数回開催して、リスクマネジメントに関する方針の周知・徹底を図っています。

グループ会社を対象にした年間リスク評価テーマ

2016年	個人情報漏洩対策／事業所耐震状況
2017年	防火管理体制
2018年	著作物に関する管理体制
2019年	役員・従業員による不正防止対策

リスク対策として実施した主な研修

2017年	ハラスメント研修
2017年	標的型メール攻撃の訓練
2017年	e-ラーニングによる情報セキュリティ教育
2018, 2019年	テロ対策訓練

コンプライアンス委員会

グループ全体のコンプライアンス体制を整備するため、「リスクマネジメント基本規程」に基づき、「コンプライアンス委員会」を設置しています。当委員会は、事務局を法務部に置き、法令遵守と企業倫理の周知に関する事項、通報・相談に対する調査および処置に関する事項をおこなっています。委員会の議事内容は、「リスクマネジメント会議」を通じて、取締役会に報告しています。

内部統制委員会

グループ全体の財務報告に係る内部統制体制構築のため、「リスクマネジメント基本規程」に基づき、「内部統制委員会」を設置しています。当委員会は事務局を内部監査室に置き、財務報告に係るリスクの情報収集とその対応策、内部統制システムの構築推進および運用に関する事項をおこなっています。委員会の議事内容は、「リスクマネジメント会議」を通じて、取締役会に報告しています。

グループガバナンスの強化

東宝グループは、グループ会社47社（うち連結子会社34社。2019年2月28日現在）から構成される企業集団です。これらグループとしてのガバナンス向上を図るため、「グループ経営管理規程」を定め、グループ全体の経営方針・戦略に従って、業績の拡大、効率性の追求、グループ全体の企業価値向上を図るべく、当社とグループ会社の意思決定における権限区分を明確にするなど、経営管理の基本的なルールを整備しています。



報告対象組織 東宝グループ(東宝株式会社および主要な子会社)を対象範囲としています。対象範囲が異なる場合は個別に対象範囲を記載しています。

報告書発行時期 2019年10月

©TOHO CO., LTD. All Rights Reserved. TM&©TOHO CO., LTD.